2021 AIIT PBL

情報アーキテクチャ専攻
板 倉 PT

主担当教員：板倉 宏昭 教授
副担当教員：嶋津 恵子 教授
松尾 徳朗 教授

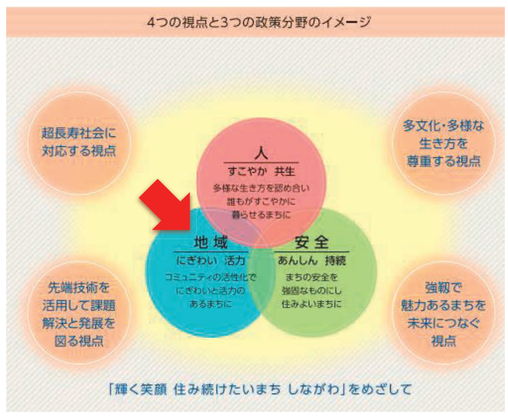
品川区への提言：商店街活性化を通じた地域課題解決エコシステム

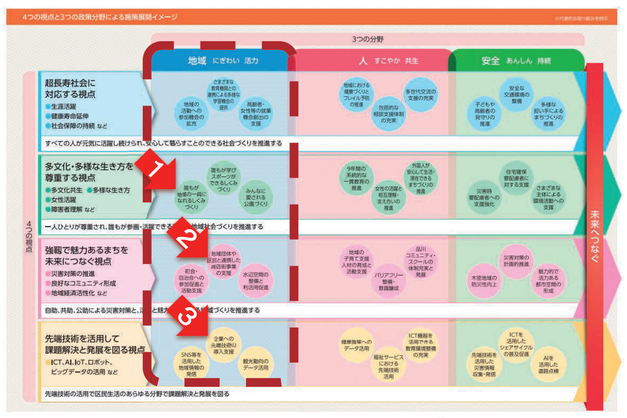
板倉PTの活動概要

AIITが所在する品川区には、地域資源として*大小104の商店街*がある
本PTでの活動を通して、地域活性化における商店街の重要性を再認識した
品川区の理想・既存政策を基に、創業支援・デジタル化・国際化等の観点で検討を重ねた
フィールドワークの結果から、商店街毎の個別事情に応じた個別対応が求められることを確認
地域課題解決型PTである板倉PTとその関連組織による*商店街支援人材の供給*を品川区へ提言

2021年1月29日
品川区への政策提言
を実施

品川区の理想・既存政策





2020-2029 令和2年度▸令和11年度 品川区長期基本計画 より

政策分野「地域」に着目

1. 誰もが地域の一員になれるしくみづくり
2. 地域団体や区民と連携した商店街事象の支援
3. 企業への最新技術の導入支援

商店街を取り巻く課題・環境の多様化

武蔵小山駅周辺地域 まちづくりビジョン より

https://www.city.shinagawa.tokyo.jp/ct/other000032700/musasikoyama_vision.pdf

- ・毎月の組合費が高い
- ・家賃が高い
- 新規出店はチェーン店が主となる
- ※武蔵小山商店街、中延商店において

コロナ禍においてIT活用といわれているが、個店毎のITリテラシーにバラツキあり

武蔵小山駅周辺 まちづくりビジョンに基づく駅前の開発と既存商店街との共存・共栄
※武蔵小山商店街において

人口増加（子育て世代や、一人世帯等、在日外国人等）、既存の高齢者等の人員構成の多様化
※武蔵小山商店街、中延商店において

商店街毎の個別事情に応じた個別対応が求められる

フィールドワーク（聞き取り調査・現地視察）

中延商店街

武蔵小山商店街

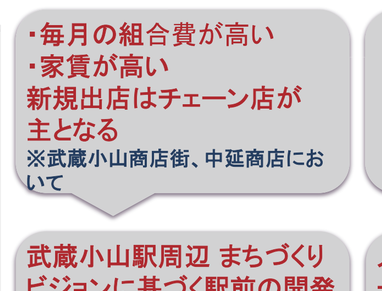
品川区 地域振興部
商業・ものづくり課
商店街支援係

くにば雄大
品川区議会議員

福田英子氏
ウーマンズビジネス
グランプリ2016 in 品川
グランプリ受賞者

商店街への聞き取り調査

武蔵小山商店街のヒヤリング（5件）より



週に1回は食材を聞かれる店舗あり（1件）

ハラルについてセミナーで学びたい（1件）

オンライン等で学びたい(3件)

学会発表

横幹連合コンファレンスでの論文発表

品川区への政策提言に向けた全体像

【エリアサポーター人材の養成と供給】
商店街の個別ニーズを収集し、多様な課題に個別対応できる体制を提供。商店街の内部力と外部力をつなげる担い手機能の実現

＜AIITの強み＞
立地 / IT
社会人向け大学院

＜品川区の課題＞
エリアサポーターの強化

＜創業支援＞
地域に思い入れのある強い個店の創出

＜デジタル化＞
商店街・個店のデジタル変革

＜食の国際化＞
食の国際化による商店街活性化

＜多様な支援策＞
商店街の個別ニーズの把握

分析・結論

デジタル化

創業支援

商店街歴史研究に基づく想定
① 情報格差と商業
② 政策の変遷と商店街

＋

中小企業庁研究会に基づく想定
① ITの重要性
② 商店街政策の失敗

聞き取り 武蔵小山・中延商店街
聞き取り 武蔵小山創業支援センター
聞き取り インキュベーションハウス池上
聞き取り 品川区

＜想定＞
① 地域コミュニティだけでは商店街は活性化しない
➡強い個店の創出が必要
② 地域コミットメントのある商店主が商店街の活性化につながる

＜品川区への政策提言＞
商店街内での創業支援事業
➡武蔵小山創業支援センターを活用した商店街との連携(子育て世代向け創業支援強化)

品川区への政策提言

商店街エリアサポーター人材の供給を含む、商店街活性化などの地域課題の解決を支援します!

品川区商店街

品川区

地域バリューチェーン・エコシステム

学官連携

産官連携

産学連携

NPO法人
品川クリエイティブラボ

板倉PT(事業設計工学コース)
産業技術研究科・産業技術専攻
（専門職修士課程）

シニアスタートアッププログラム
（職業実践力育成プログラム）

スタートアップ・アクセラレーター研究所
（所長：板倉教授）

国際化(ムスリム対応)

バトルさん
留学生（修士課程）
来日4年目
江東区在住

1日在日ムスリムである私にとって毎日の食事は本当に大変です。日本でもムスリムの人口が増えていますが、ハラルフードを気軽に入手することはまだ難しいので、毎日の食事の準備には多くの時間と手間がかかります。私が通う学校や住まいの近くに、ハラルフード食材店やムスリム対応レストランなどがもっと増えれば、日本での食生活がもっと充実します。

グリズバさん
留学生（博士課程）
来日8年目
江東区在住

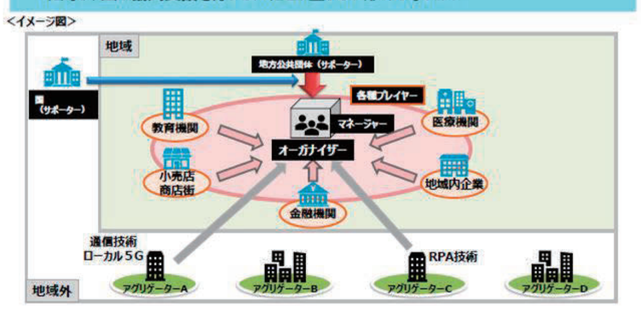
私が日本に来て困った事は、言葉と食事でした。言葉の問題は自分の努力で何とか解決できました。でも**食事の問題は私の努力だけでなく、生活環境にも依存**します。実際に今暮らしている地域でもハラル食材を気軽に入手するのは難しいです。**冷蔵庫の大きさとの兼ね合いで一度に買いだめできる量も限られるため、いつもたくさんの時間をかけて遠い場所にあるハラル食材店に通って**います。それ以外にも、ムスリム対応レストランが大学院の近くにはないため、**同じ研究室の日本人学生との飲み会への参加も難しく、仲間との交流機会を逃す**ことがあります。大学院卒業後は日本で就職したいので、日本での食生活は私にとって切実な問題です。

アラファトさん
会社員
来日11年目
江東区在住

ムスリムである私にとって**会社での毎日の昼食**は大きな悩みです。日本人の同僚よりも私は昼食のために多くの時間がかかります。**昼食弁当などの素材を確認しながら何を食べるかを決める必要があるからです。食事の素材確認で昼休憩時間の半分を使う**こともあります。もし、私の会社の周りに、ハラル食材店やムスリム対応レストランがあったら昼休憩時間をもっと有意義に過ごすことができるようになると思います。

地域デザイン

課題の抽出と多様な対策の実行支援

- サポーター（地方公共団体）が選択・支援するオーガナイザー／マネージャーが、地域内の各プレイヤーの協力を得るとともに、アグリゲーターの製品やサービスを活用しながら、地域にとって必要な取組を持続可能（低コスト等）な形で行うことを目指すプロジェクトに対し、国が協調支援を行っていくことが望ましい形ではないか。

＜イメージ図＞